

## おじさんの「わかりやすい」哲学 発想の原点を考える ものの価値を決める基準には普遍性があるか

文字を書くのにボールペンが必要なのは当たり前ですが、昔は筆や墨が重宝がられました。筆が使われなくなれば、その価値は低くなります。時代によって人々の需要が変わり、その価値も変わるという一例です。

ところで物を買うのにはお金が必要であります。国内ではその国の通貨が使用されますが、国際的にはIMFの取り決めによって米ドルと金が決済の基軸になっています。しかしアメリカが経済不況のため、ドル紙幣を安易に印刷すると為替が変動してドル安になります。その場合、円高になり日本では同じ車を同量売っても実質に入る金は減ることになります。このようにものの価値を決めるのは意外に難しいのです。

最近の大相撲の八百長問題はどうでしょう。相撲がスポーツであり、勝敗がすべてであるという観点に立てば勝負は限りなくフェアでなければならないと思われまふ。しかし、相撲が日本の伝統文化であり、国技であると強調すれば、少々の人情相撲は許容されるかもしれません。

尤もスポーツといってもプロレスのようなエンターテインメントとなれば、観客は勝ち負けをいうよりもその勝ち方、負け方を楽しむことをよしとします。そうなるとスポーツといえどもその価値概念をどこにおくかということを楽しみ方すら違ってきます。

もっと別な例をあげますと、これまで何の価値もないと思われていたレアメタルやレアアースが鉱山から取り出され、それらが携帯電話や自動車の心臓部の部品にまで必要不可欠だということになってくると、その重要性が増し、たちまち世界から注目され争奪戦になりました。

また低開発国の不毛と思われていた土壌に生息していたかびの一種から抗生物質が生まれ、別の土に存在する物質からがん治療の新薬が開発されたということもありました。土壌に限らず、これまで価値がないと思われていたものが、突然大きな価値を持つということは珍しくないであります。

これは確かだと思ってきた常識が、あるとき、大きく崩れることがあります。それは人々の考え方が常に普遍ではなく社会の変化とともに変わってくることもあるからです。

それでは、ものの価値を決める基準の概念とは何であるかについて考えることにします。一つの価値を決めるのに何らかのものさしが必要になります。そのものさしが常にかわらなければ、誰が測っても同じことになります。しかしそのものさしが問題になるのです。長さの測定ひとつにしても、メートルで測るのか、ヤードではかるのか、尺ではかるのか、その測る単位が違えば数値も変わることになります。さらに単位と云っても単純ではなく、測る対象が、ただの棒もあれば、距離もある。あるいは年月の長さもあり、それぞれ異なります。今回は価値概念の普遍性について少し深く考えてみたいと思います。

## 1 極大と極小は正反対か

価値判断の問題に入る前に、ものの考え方に関する、一般的な手法について触れてみたいと思います。

極大と極小は一般的に云えば、正反対の座標軸に位置するものである。だが、全くの正反対かという、そうではなく、実はその両者の極点では限りなく接点があるようなのであります。

このことについて説明してみます。この世に現存する構成物といえ、それは動物にしても植物にしても、鉱物にしても、それらはすべて炭素や窒素や水素などの原子が重なり合って分子をつくり、分子が複雑な組み合わせをつくることにより様々な物質をつくりあげています。短的に云うなら原子こそ物質を構成する最小の単位である。この原子は中心に核をもち、その周りにイオンが囲んでいる。核とイオンを強力につないでいるのが中間子であります。この中間子をプルトニウムなどで破壊すると、大きなエネルギーを発生し爆発が起きます。それが原子力であります。つまりこの持つ意味は、極小のものを研究することによって、原子力という巨大なエネルギーの源を人間は編み出したこととなります。地球上に存在する最小の物質の原子を研究することが、人類史上、最大のエネルギーを発生させるのに、一番近い距離にあったことになるのです。

別の話になりますが、この世で考え得る極大のものとは宇宙であります。はやぶさが地球から遠く離れたイトガワから数年のときを経て地球に帰還して話題となりました。そのとき持ち帰った微粒子は1万分の2-3ミリの極小のものであります。この微粒子こそが、極大の宇宙の誕生の成因の謎を解く鍵になるといわれます。そのことはまさに極大と極小は、正反対のものではなく、あるところでは同じ線上でつながっているエビデンスでもあります。

それは宇宙がビッグバンによる大爆発の際に、無数のイオンが発生し、後にそれらが原子となり、さらに原子が重なり合って分子ができたといわれます。この分子の組み合わせしだいによって、やがて水中に植物が出来、陸上に上がると、動物がそれを食して誕生することになりました。このことは、まさに、マクロやミクロも正反対ではなく、同じ方程式から解き得る世界から成立しているといえるのではないのでしょうか。

## 2 仮想と現実とは異質の次元のものか

われわれは現実と非現実（バーチャル）は一般に次元の違うものと考えられてきた。しかしその確信が今になって、大きく揺らいでいる。例えば飛行機のパイロットの場合であります。彼らはその80%をヴァーチャルの世界で訓練するという。それは、平たく言えばゲーム機器の進化したもので、訓練室は立体的な精緻な構造になっている。風力や気圧による気流の変化など、様々な気象条件を想定してコンピュータが演出し、パイロットに地上で訓練させます。その訓練室では、空を飛んでいる仮想空間であり、実体験とは異なるものです。しかしそこでトレーニングをすればパイロットは実体験をかなり省略できるのであります。それは実体験を時に超えるものでもあります。従来のパイロットの資格が最低5000時間以上の滞空経験が必要とされるとい

う規定も当然変わってくるであります。昔から、学問は経験を短縮するといわれてきました。現在はそれが日常化してきたといえるのであります。

あるプロの棋士が書いたものを読んだことがある。先輩から、「少しでも多くの対戦をすることこそ実力をつける近道だ」と、聞かされてきた。しかし、最近 わたしはそれが必ずしも正しくはないと思うようになった。最近では、私はコンピュータと向かうことが多くなってきた。コンピューターはあくまで機械であり、人間ほど応用が利かないというのが先輩の考え方であった。しかし機械は多くの棋士の戦法を研究してソフトがつくられていて、今では想像以上の力を持っている。それにいかに勝つか、の対策を練ることの方が わたしにとってはいい勉強になることが多い」  
分野が違うが ある親しくなった美術大の教授から こっそり打ち明けられた話を思い出す。

「わたしは ゼミの学生とスケッチ旅行によく出かける。ところが最近の学生はスケッチをすることにあまり熱心ではない。あるとき気づいたことだが、そのかわり彼らは デジカメを必ず持参することであった。つまり彼らは風景のデッサンの合間に結構、写真を撮ることに熱心なのだ。あるときからわたしもカメラを持参するようになった。帰宅してから自分のアトリエにプロジェクタを持ち込んで、投影した。それを自分のデッサンしてきた実物のものと対比するのだが、これが意外と役立つことがあるのである。

「人に声をだして言えないが文明の利器は使いようだね」

最近、書籍をNETで買う人も多くなった。週刊誌でさえ、簡単に購入する。手元に買うこともあるが電子書籍としてダウンロードして本は読婿とも出来る。「昔、本屋というところへ行って、新刊を探したことがあったね」と懐かしむ日も遠くはないことでしょう。それより、パソコンから架空のバンクへ行って、預金や投資をすることもできる。こうなってくると何が現実で、何が非現実かの区別がわかりにくい。

私が 70 年の人生の中で、これあは現実なのか、何か別の異空間にいるのではないかと、一瞬でも思ったことが数回はありました。

はじめは、6才の3月、米空軍の空襲で、郊外へ逃げ惑いました。2, 3日後、母親とともにもどりました。当時の名古屋市はまったくの焼け野原で自宅は消失し、栄の中心部まで見通せるほどでした。蔵が形を残していましたが、中のものは黒く、手をやるとまだ熱さがありました。子供ながら呆然と立ち尽くしていたのを覚えています。でも、これは夢ではない、現実だとはっきり認識していました。

30歳のとき、わたしはニューギニアの中央部、ワニゲラの部族を訪ねました。

週1回しか飛ばない郵便飛行機でおろされた閉ざされた部族の集落でした。昼間は一日、部族の踊りがあり、夜は集落のはずれにあるわらぶきの1軒家でした。孤独と恐怖に苛まれました。私は誰も行ったことのない未開の国へあこがれて、オーストラリアの学会のあと、一人ニューギニアにより、ポートモレスビーの空港で、郵便飛行機に乗せてもらったのでした。その夜、自分のとった行動に航海しました。もう日本にもどれないのではないかと思います。足をつねってこれは本当のできごとか確認もしました。細かいことは抜きにしてもそのときも、嘘ではない現実の字便を

感じていました。

35才のとき、私はアメリカの消化器病学会で発表していました。当時はまだ日本からアメリカ発表する人は多くなく、会場の1000人以上を占める人もほとんどがアメリカ人で、私としては夢にまで見たアメリカでの光栄の発表でした。自分のような青二才がこの場に立っていていいのであろうか？ 自問はしましたが、このときもこれは、間違いない現実の自分を意識しておりました。

それから、数年後、のことではありますが、私はアメリカのフロリダのリゾート地のユニバーサル スタジオへ行ったときのことがあります。

そこで地震のテーマ館へ入ったのです。これははじめから仮想の体験をすることを承知で入ったのでした。入り口から進むと、はじめのうちは、これまでの世界で起きた大きな地震の様子が写真で紹介されていた。その被害の大きさに脅えながら、そこをぬけると、次に薄暗い不気味そうな広間に出ました。そこに数箇所のエレベータの乗り場があり、客はそれぞれが別れて並んだ。しばらくして扉が開いたので中へ入ると、それは、地下鉄に仕立てた車両になっていました。何が起きるか不安と緊張に包まれて腰をおろすと、電車はごとごとと振動を響かせながら、闇の中を走りだしました。しばらくして、明かりがさしてきて、次の駅にさしかかりました。ホームに入ってくると、車体がひどく揺れ、きしむような音がしました。大きく横に車体が揺れ、車に強い衝撃が走りました。地震が発生したのです。ホームのあちこちの蛍光灯からパシッパシッと火花が散りました。どこかで何かが崩れる音がします。さすがの乗客も暗い中で、あちこちから悲鳴がおきました。これはバーチャルだと思っても、あまりにも逼真に迫るものがあり、身体がふるえるばかりでした。顔をあげると出口に上がる階段が明るくなり、上から大量の水が流れてきました。それは本当の水であることがすぐわかりました。飛び仕切る水を避けながら生きた心地がしなかった。娯楽施設のバーチャルな体験とはいえ、さすがのリアルさに乗客はみなく、震えたのです。心臓の悪い人と小児は乗らないで下さいと掲示があったのを思い出したものです。不思議なことに仮想体験と知りながら、入った施設が一番現実の恐怖をかんじたのです。

つまり、現実の中でおきたことは、多少の戸惑いはあっても意外に落ち着いておられるものですが、仮想と信じているときに、想定外のことがおきると、人はかえってパニックになりやすいものだと思います。

今回の東日本大震災の際、地震と大津波、さらに原発事故の恐怖、被災者の方はこの体験は まさにバーチャルとノンバーチャルは、紙一重のところにあつたのです。

最近の進歩した外科手術の現場では3D画像を駆使して、人間の目や手の経験だけではとても、不可能と思われる手術を成功させていることは知られている。外科医がメスで切る感覚とは違い、テレビ画面を通してロボット技術を使いながら切除するのである。

バーチャルのものを現実の世界に合体させることによって、現実はより進化を遂げているといえるであろう。

仮想の自分を演技して、実態もわからない相手とNETで会話しながら、毎日を過ご

している人も珍しくない世の中になりました。ここでは仮想と現実はまったく同居していることとなります。

最近の情報回路の進化は著しい。face book に代表されるSNS（ソーシャル ネット サービス）の発達は想像を絶するものがあり、従来の企業がものづくりが基本であったのに対し、SNSは情報を素材に構築する企業として、大きく成長しています。極端ではありますが、兵器で爆破して破壊する戦争ではなく、サイバー攻撃は目に見えないウイルスを使って核施設の制御装置まで侵入することがあるといえます。

少し付け加えますが、仮想と現実は限りなく近接した位置にあることは確かですが、それはイコールのものではありません。それは数学の世界では常識ですが、100のものが2や1に近づけば、一見、0に等しくなりますが、1のものが0になるのには、これまた限りない距離が存在することを忘れてはなりません

### 3 距離を測るものさしについて

基本的に距離を測るのはその長さであります。近年少し様相が変わってきました。東京から名古屋までは距離は350キロだといおうのは間違いではありませんが、東京と名古屋は1時間半の距離だといったほうが感覚的にはわかりやすい。東京駅から銀座まで車で10分ですよ、という言い方をします。人は距離を時間というものさしに変えたのであります。時にこのものさしは経済が尺度になる場合もあります。東京から九州は飛行機で1時間半だよ、と話してくれます。この人の場合、列車に乗るという概念はなくはじめから空便を念頭にしています。運賃が高くても飛行機を使うことを優先しているのです。この場合、時間をお金で買うこととなります。距離を測る基準が、長さを測るものさしから時間で考えたり、経済で考えたり、時と場合により違ってくるのです。さらに宇宙の長さを表現するのに、光が到達するのに何年かかるかという光年で数えることになっている。とはいえ、宇宙の生誕の長さは年月が単位となります。太陽系ができたのは46億年前だと表現するのです。

60歳をすぎたある同窓会で友人と話題にしたことがあります。人生を振り返って、時間を一番長く感じた時代はいつであったかということでした。そこで多数が一致したのは小学校の6年間でありました。それは小学校では一番覚えることが多く、体験することがすべて新鮮であったのである。この頃に体験した喜怒哀楽が一番新鮮で印象的である。確かに高齢になったからの月日の経つのは早いものです。スケジュールも次々入ってくるのですが、それらの多くが例年経験することで新鮮さはありません。予定を聞くだけで、出席者の顔ぶれや、議題もわかっており、もうすんでしまったことのような感じになってしまいます。

ところで、これまではふれてきたのは長さの単位についてでありました。長い距離を移動する、渡り鳥や、太平洋を回遊する魚たちは、どういう単位で長さを感じ取っているのでしょうか シベリア大陸から日本まで飛来する渡り鳥の熱意には

敬服するしかないが、その距離感覚はどう計測しているのであろう。  
他の動物についてもいろいろである。動物学者が書いた本に象の時間とねずみの時間というのがありました。動物の寿命は心拍数に関係するということです。そうすると、時間の感じ方もそれに関係があるのでしょうか。二十日ねずみは1分間に500-600の心拍数であります。心臓が20億回うてば、寿命になるということです。だからねずみの寿命は3年だそうです。

ちなみに人間にあてはめて計算すると、人間の寿命は58歳ぐらいになります。種族保存の法則にしたがえばまさに的を得た寿命といえるかもしれません。ともあれ、魚や鳥にどういう感覚で長さを考えているか知りたいところであります。

#### 4 日本人の求める価値観の変化について

日本が戦後著しい経済復興をなしとげた初期の一つの価値観として、重きをおいたのは大きいことはいいことだの合言葉に、重厚長大産業がもてはやされました。鉄は国家なりとあって八幡製鉄が躍進し、のちになって富士製鉄と統合し新日鉄となり、粗鋼生産では世界一になりました。鉄鋼が栄えたときは造船も飛躍しました。丸紅、三菱など総合商社も世界へはばたき、自動車も欧米に進出しました。次にIT社会の幕開けとともに、大きくて重いものより、今度は、軽薄短小の製品に価値観がシフトすることになりました。

多くのトランジスターを利用したものや、各種電化製品など、軽くて薄いものが人気を呼ぶことになったのです。

そして近年ではそれに安、環、縮が加わることになりました。それは安心、安全そしてコストが安いという意味を含めた安であります。環はいうまでもなく、化石燃料から脱却した環境にやさしいエコ製品であります。縮とは何でしょうか、それは時間を短縮するという意味の縮であります。時間を短縮するというのはITの進化に伴うものであり、目的を決めたら時間を労せずして容易に目的に達することです。

人に聞かなくてもNETで答がわかる、商品でいえば産地直送で中間業者は不要というのであります。

目的のために過程は省略しても結論に早く到達するというものであります。これには多くの説明はいらないでしょう。どこにいても情報はすぐ手に入れることができます。ツイッターやや、ブログにしろ、昼夜を問わず、世界を駆け巡っています。エジプトの政権交代も、飛びぬけたリーダーが不在でも、群集が集結するきっかけになりました。これまでの常識をはるかに超えた事象であり、無形の情報を共有した群集が新しい価値観を求めています。その波はエジプトに限らず、リビアやバーレーンなど中東諸国に拡大しています。

話を変えますが、アメリカで最近、鉄道計画が持ち上がり多くの国が輸出に強い熱意を持っています。日本のリニア新幹線は卓越した技術をもっているのです。これには当然強い関心がある。これは従来のものと違ってレールを車輪が走るのではありません。NとSの磁場を使って車両が地上を浮いたような状態で走ります。他国のものは2-3センチ浮くが、日本のものは10センチ近くも浮くといえますから静かで速い。日

本の新幹線は開業以来、大きな事故はおこしたこともありません。日本の新幹線技術は世界一であると日本人なら誰も疑わないでしょう。しかしアメリカの求める基準を十分満たさない課題を抱えています。それは万が一転覆事故が起きたときのときの安全さである。それは新幹線技術そのものを問うのではない。もし激しい突風がおきたら、もし大型の車が橋げたを壊したとき、レールを破損させたり、レール上に何か意図的に障害物がおかれて車両を転覆したりしたときなど、車内の人間の安全性はどうかというような問題であります。さすがここまでは日本で想定されて製造されてはいないことでした。にほんでは例外と思えても、それがアメリカの安全基準では重要なポイントなのです。外国ではそれなりに安全の概念が違うのであります。

## 5 新しい価値観の創出について

私は、価値観というのは常に普遍ではないといってきました。それでは新しい価値観はどのようにつくられ、どのように変わるのかということを考えてみたいと思います。

それを考える上でまず、分けておきたいことがあります。一つは具体的な新しい物体(商品)をつくり、そこに価値観を見出すということであり、たとえば、自転車に乗って走るより、もっと速く安定した自動車をつくるという発想であります。次に、自動車では陸路しか走れないから飛行機を作って空中を飛ぶことの出来る飛行機を発明して、それに新しい価値観を見出すというようなものであります。もうひとつ、物をつくりあげるというのではなく、無から生むということであり、無から有をつくる？ それは実は意外なことではありません。作曲家が曲を作る場合がそれにあたります。作曲家は頭でイメージしながら音符を記し、これまでになかった曲をつくる。ベートーベンの「運命」は彼自身のオリジナルでいまだに世界中で評価され演奏されています。多くの小説家だってそうであります。何もないところから、一大ロマンの文学を完成させるのであります。

そんなに大げさに考えなくてもいいのです。野球の監督はどうであろう。帽子に手をあてるだけで、三塁から一挙にホームへランナーを帰し、勝利に導く。それは、打者がヒットを打たなくても点をとったのです。

無から有を生むことは身近なところにあります。

実は、私がこのような例をあげるまでもなく現実はずっと進化しています。コンピュータの世界では日常的に無から有のものをつくりだしているといっているでしょう。

コンピュータのことは、別にして価値を作り出す上でその手法となるのはどんなものであろうか。単純に言えば、新しい発想とその展開を求めるには、今、机上にあるテーマを破壊し原点にまでもどって考え直すことにあります。そこから新しいものがでてくる。それは誰でもわかっている。問題は原点にもどる手法だ。その一つは、地震とその連鎖反応という考え方である。ある地域で地震があった。地震の地点はどこで、その深度はいくつか。その直接的被害は何かとまず縦の状況を考える。つぎに、津波が起きて、海を渡っていくと別の離れた地域に水が押し寄せ、畑の作物に影響が出たり、民家に大きな被害をもたらすかもしれない。

ある人が、最近のテレビ番組は低俗だ。テレビ局の幹部の識見が問われる、といって批判していた。

その指摘は間違いではない。しかし連鎖反応という手法でみると少し違う側面もでてくる。つまり、その国の経済が悪くなると広告収入も減ってテレビ局の経営まで影響する。そうすると、番組スタッフも テレビの視聴率に敏感にならざるをえない。視聴率をとるためには、多少はなりふりかまわずといったところで、若者や大衆受けするような企画も多くなるという循環になります。

ものの考え方に平面的知識と立体的知識というのがあります。それは平たく追えば、ネットで得る知識は前者であり、その道の専門から直接話を聞いたり、実際に自分が体験したりして納得する知識は後者に属する。ある文学部の教授が学生に芭蕉について書くよう課題をあたえたところ、その6割が内容から文体まで類似しておりあきらかにネットからの引用で驚いたという。ネットから入る知識はすべて正しく、客観性があるものではない。ことより、自分の狭い領域の中から全体を判断することは偏見に満ちたものになる危惧もある。知識というものはおおいにこしたことはない。しかしそれをもとに、全体をどう判断し、どういう決断をするのかがもっと重要なことである。

新しい発想をだすにはものの原点までもどることだといった。だがこの意味は無から有をうみだすということがすべてではない。現在あるものを否定するということではなく、現在の状況をすべて認めた上で、発想の転換を計るという手法も存在する。むしろこの方が一般的といえるかもしれない。ビジネスを考えるとこの方が一般的である。最近の身近な例を取り出してみよう。

韓国や中国がそうである。将来の食料不足を考慮して南米やアフリカに広大な農地を確保する戦略を展開せいでいる。それは、買収ばかりではない。道路や下水道などインフラを提供する見返りに、農地を

賃貸する方法などさまざまである。日本では、農地を海外に求めるとすれば、国内農家を圧迫するという考えのほうがはるかに強いだろう。

また最近、外国ではBOPとか、国内では貧困ビジネスという言葉が聞かれる。これは貧困層を対象にしたビジネスである。たとえば、年金が月8万という人々をターゲットにした、賃貸アパートなどが

全国的に広がっている。それはワンルーム マンションであるが介護保険を利用すれば、介護サービスは受けられるし、近隣の医師の往診も受けられる。業者の計算でいけば、それでも経営は成り立つというのである。韓国の家電が日本の卓越したメーカーをはるかに凌ぐ売り上げをしているのは多機能、高品質のものを追い求めるのではなく、白黒のみのテレビとか、回転しなくても一定の風だけをおくる扇風機とか、それぞれの地域の実情に即した製品を安く、需要に応じた品質で勝負していくという戦略で成功してきたのである。



## 6 物事の判断基準の尺度の普遍性について

皆さんはどういう風にお考えるのでしょうか。一般に価値官の判断は7はその時代の生活習慣や住む地域によって、それぞれ異なることでしょう。また、手段や用途による需要の変化が大きく関係します。交通の手段を考えても、徒歩や籠の江戸時代は宿場町が賑わいました。鉄道が出来ると宿場町は寂れて鉄道の駅が中心となりその周りが栄えました。車の時代になると、またその中心は変わってくるようになります。これはわかりやすい歴史の流れです。

産業の角度からみると別のものが見えてきます。

アメリカの産業がたどってきた道がわかりやすい例になります。戦後、最大の産業は鉄鋼であり、USスチールという会社でありました。鉄が基幹産業となり、軍事製品はもとより、造船、車、航空機をつくりました。家庭では空調や、テレビ、冷蔵庫、掃除機など、多くの家電製品もその裾野に広がったのです。しかし家電品や時計産業など、日本を先頭とする新興国が進出し、それに代わりました。ものづくり産業が敗退する中、アメリカはシリコンバレーに都市を作り情報化社会に備えたのです。やがてパソコンが何よりの産業の時代になりましたが、ハードはどこの国でつくることができたのですが、ウィンドウズなどソフトだけはアメリカがしっかり保有しました。日本でもひところは重厚長大がもてはやされましたが、のちに軽薄短小とうわれて大きいものより薄くて小さなものよいとされた。現在での価値観はさらに情、利、安、環、が加わることになるのです。情とは情報、つまりIT関連、利とは便利で使いやすいもの、安とはそのままやすいこと、安心、安全であることを意味します。環は環境にやさしいもの、エコであります。

このように時代によって明らかに価値観は変わってくるわけです。ものの考えや、その尺度が変化することをよく認識すべきであります。私がこれまで書いてきたように、大小、長短も常に固定したものではないということを知覚すべきであります。

長所、短所とかメリット、デメリットという、相反するようですが、極大と極小の考え方や仮想と現実の考え方と同じであります。長所を伸ばすためには、短所をよく吟味し、短所を少しでも減らせば、長所はより伸びるというものであります。

車にはガソリンが必要で排気量をあげれば性能は向上しますが燃費が高くなります。エコを考えればよくない。それが大きな短所になります。それを克服するのが電気自動車です。これにははじめからバッテリー車の開発があったのではなく、ガソリンを使わねばならないという欠点を克服するために出てきた発想でありました。

その時代にあった価値観を見出すことが社会の勝者になりうるのであります

## 7 立ち位置と価値観

あなたに最新のI padをあげます、と言ったら若いあなはとびあがらんばかりに喜ぶでしょう。こんな便利なものはない。こんなに役立つものはない。しかし、70過ぎたあなたなら、さしだしても、こんなものは不要ですと、いうかも知れません。

2、3歳の子にあげても少しは触るかもしれないがほとんど興味はしめさないでしょうね。

私が40年以上前になりますが、ニューギニアの奥地を訪ねたことがあります。(この経験は別の書にあります) そのとき、出会った村の酋長がどこかからk a 手に入れたのであろう、古いこうもり傘を大事にして身から離しませんでした。3年後に訪れたとき、私は折りたたみの小さい傘を用意してお土産にて持って行ったのです。さぞかし驚き、喜んでくれるとかくしんしました。ところが彼はそれを「受け取ってもあまり嬉しそうでもなかったのです。彼にとって、傘は雨をしのぐためのものでなく、こうもり傘は持っていることが、ステイタスであり、そのためには大きくて長い方がよかったです。たしかに裸の民族にすれば、雨は降ってもかさでよける必要はなかったわけです。日本の武将だって使いやすい小さいものよりも、長い立派な刀を身につけていたのと同じであります。要は人により価値観は違うのです

これは商品を売る立場にある人が、いつもかんがえることです、需要がどの層にあるのかを予測するきの基本です。需要の予測は単なるリサーチにとどまらず、新たな掘り起こしにつながらねばなりません。百貨店がブランド物を集めた専門店という高級感で勝負した時代が続いていました。しかし、あるときから発想の転換を図って、地下に日常の食料品コーナーをつくったのです。これが主婦の人気を集め、来店者が増加のきっかけになり、あわせて他の商品のうりあげにつながるようになりました。一方、当時、百貨店の売り上げを凌ぐいきおいであったダイエーなど大型スーパーが、安いものだけでは儲からないと中途半端な高級商品を扱うことになりましたが、これはうまくゆかず、かえって安いものに徹した郊外の大型スーパーに客を奪われる結果となったことは記憶にあることだと思います。価値観の多様化により商品開発には知恵がいるものであります。

## 8 価値観を突如、自ら変えねばならぬとき

これまで述べた価値観は主として社会が変動するにつれて変わる価値観についてのものであります。しかしある時の事象により、意に反しようと、自らの意思によってそれを変えなければならぬ時もあります。

今回の東日本大地震の場合がその典型でありましょう。2011年3月11日2時46分の突如として起こった地震、それとともに津波、さらには福島原発の放射能物質の流出は人々を恐怖にかえました。家をながされ、家族を失い、一瞬にして漁業や農業はもとより、工場や商店を失いおました。人々のこれまでの蓄積をすべてうばったのです。被災にあった人々はこれまでの価値概念をすべてかえることを余儀なくされるけっかとなりました。こうした自然災害の例は別にして、ここではこの日常の中でおこるケースをとりあげてみたいとおもいます。

1 Aさんは地方では有力な建築会社を経営していて順調でしたが、主な取引先の資材会社が株式運用に失敗し、倒産しました。そのあおりを受けて自分の会社までいきづまったのでした。裕福な生活をおくっていたAさんは予期せぬ負債を抱えて路頭に迷うことになりました。

2 Bさんは一流商社のエリートとして入社してまだ3年目でしたが、突然襲った不況のため会社を解雇されることになりました。その直後、結婚を約束していた美しい恋人から連絡が途絶え、彼女は別の男と見合い結婚していることを知りました。会社から、個人からまったくの信頼を失ったのでした。

3 Cさんは広告会社に勤めるやり手の営業部長として近くは役員候補として自他ともに認める56歳でした。何気なく受けたCTスキャンの診断ですでに進行した肝臓がんとの診断を受けました。

4 Dさんは銀行の副支店長として真面目な勤務をしていました。たまたまの休日にゴルフにでかけ、帰宅のおり、クラブハウス近くの石の階段からころげおちました。運悪く、腰の骨を折る重傷で半身不随となりました。

5 Eさんは17歳の女子高生、進学校に合格、青春もこれからの夢も多いこれからでした。テニス部に入り練習中、友人のラケットが右目にあたり、まさかの失明の事故にあいました。その影響が反対の目にも受け、極度の弱視になりました

いずれもまったく予期せぬ出来事で、しかも未来に何の展望もないのです。まさに待ち受ける人生は価値観をまったく変えなければいけない泥沼でしかなかったわけです。これまで自分が勝ち得た人生の成果を捨て、新たな出発点を指定されたわけです。それも大きな負担を背負っての再出発となります。

さて、こんな立場におかれたらどういう選択と挑戦ができるでしょうか

Aさんは数年後、かつて自分が請け負って建設した関係した有料老人ホームの住人になっていました。しかしそこでは建築のアドバイスをしたり、メンテナンスないかわる意義あるアドバイスをして施設長に大変感謝される存在になっていました。さらに次にできた同系列の介護ハウス作りに参加されていたと聞いております。朝起きると、玄関から廊下の清掃を自ら率先しておこなっているということでした。

Bさんについては、その後詳しくはありません。しかし、建築関係のガードマンをしていたり、繊維会社の営業をしていたりしました。それでもたまに見かけると元気で仕事に張り切っていました。どこにも暗い影がないのが印象的でした

Cさんについては、病院で化学療法を受けていると奥様から聞きましたが、どういふ終末をおえられたかは定かではありませんが、私には興味があり、これをフィクションで小説に書いているところです、

Dさんは、コンピュータによる経理の仕事を税理士事務所の仕事を手伝っているうちに経営に関する会社の相談を受けるようになって、のちに自分の事務所を開設するまでになったと聞いております。

Eさんは盲学校で、猛烈に勉強しているそうです。パソコンを利用した機器を幅広く駆使し、読み書きも普通の人以上にこなすと聞いています。

本を読んでくれる機能がまだ十分出ないとこぼしているという両親の話聞き、頭が下がりました。

## 9 シューベルトとモツアルトの音楽の普遍性

50年以上前、桑原武夫は俳句は消えゆく文学といって 俳句の「第二芸術論」を説いて話題になった。5、7、5からなる17文字の俳句では言葉遊びであり、お花や踊りの習い事教室にも近いと辛辣に批判したのである。15ばかりの句を並べ、作者の名を伏せて一般の投句と並べた。それで比較すると師とする人の作品が必ずしも名句と言えないと発表した。衝撃的な論文であったが、確かに説明無しで5、7、5の文学が客観的な評価ができるのか、どうかは難しい。

柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺といえは柿のもつ季節感と法隆寺のイメージの情緒は豊かであるが 金閣寺 池面になびく 寂し秋風 と詠んでも別の情緒は伝わる。要は17文字ですべてを語る文学の限界を問うたのである。古池やーと言う句が出たらもう誰も古池を簡単に作句できない。

これと似たことが音楽の世界にもあるといえは お叱りを受けるかもしれない。かつて、わたしは未開のニューギニアの山岳民族を訪ねた。そのとき、歓迎の踊りとうたを陽が暮れるまで続けてくれた。そのときに村の若者が 拭いてくれた笛の音と歌の響きは深みがあって忘れることが出来ない。古い東北民謡にも似ているようにもみえた。

彼らには音を伝える楽譜などない。

日本の雅楽を聴いていると 実に単調である。楽器こそ違えば雰囲気はかわる。しかし基本的には5音階空なっているからどれもが類似してくる。西欧の音楽は7音階にシャープやフラットがつく。つまりかなり複雑である。しかしチェンバロがでてきてから

オルガンやピアノが主流になり7音階が確立した。しかし7音階が完成してからはシューベルトやショパンを誰もこえることができない。極端に言えば芭蕉がでてから俳諧の誰もが芭蕉を凌ぐことは出来ないのである。

つまり7音階の音楽に革命的な進化をあたえるためには11音階をスタンダードにすることも考えうるのである。価値観の基本をやぶることが 別の価値観をあみだすことにつながるというわけである。

## 10 日本人の求める価値概念

戦後の日本人の求めたものは衣、食、住であった。だが、今は 医(健康)、職(仕事)、自由である。

健康に関する情報はあふれている。健康食品は云うに及ばず、健康に関する薬品は数えるにきり

がない。天然水から深層水にいたるまで商品になっている。価格にすればガソリンや牛乳より高いのである。

新卒の学生も半数は仕事がないという。経済が悪い時代になって仕事が見つからない。厳密に言えば、仕事が皆無というわけではないが、多くの中小企業では人が集まらないと嘆く。介護や介護士など絶えず募集をするが集まらない。野菜作り農家でも日本

人は着てくれないので外国人にたよっているというところもある。日本の若者は3Kは望まないのである。勿論、そればかりでなく、この時代はどの仕事将来いいのか、わからない。「将来、何になりたいですか」と聞かれた子供が「僕は正社員になりたいです」と答えた笑い話もある。一般に好況なときは、会社員がいいが、不況になると、賃金が安定している公務員がいい。ただ、公務員がいいという時代が長く続けばギリシャに見られるような国家経済の破綻につながる。公務員の仕事は住民に対して、管理とサービスが責務である。管理が厳しければ統制型のしゃかいになるし、よけいなサービスはばら撒き型社会につながっている。

自由が保障されることは生きる上で大切である。しかし個人が、われ勝手に動けばばらばらになるだけで、組織にとって大きな力にはならない。あちこちにエネルギーがたぎっていて、その力をたばねていくときに組織を大きく成長させる。国が成長するときも、各地に自由な競争があつて燃えているとき、それを政治が束ねていくとき、国家は繁栄する。中国が急成長しているのも、鄧小平が「まず、金持ちになれるものからなれ」といった言葉からはじまった。無論、その裏と表、高低落差の矛盾は大きい国あるいは組織が成長する過程はそういうものである。

## 11 生きがいとか幸せの価値観について

人は何を持ってゆたかと感じられるのであろうか。狭い意味では、お金があつて豪邸にすめればしあわせであろう。しかしそれは、物欲が満たされたというにすぎない。自分が自由であつて、意のままに行動できる。これもしあわせである。しかし自分が好きなことが出来る自由が得られるためには、自分もまた他人の自由を束縛することがあつてはならない筈である。酒を飲んで星を見ながら大声で歌って夜道を歩きたいなら、あなたがそういう自由を得るためには赤子が寝ている民家の前をあなたに歩く自由はない。あなたが政治や思想について語るのは自由であるが、あなたは相手と意見が違うからといって、その人を罰することはできない。切符を買って電車には乗れるが、無賃で乗車することは許されない。権利を主張するためには一方ではそれなりの義務も必要だが、自分の自由を保障されるためには、相手の自由も担保されねばならない。

皆が自由に主張し行動できる社会も価値概念の一つである。

将来に夢や希望があるところにも一つの幸せ感が存在する。しかし仕事がない。経済が悪い。治安が乱れる。という社会では人心も乱れ、不安が先行する。しあわせというのは人が何かの価値観に目覚め、それが満たされるか、その目的に向かって邁進するとき、それを共有できる仲間がいればなおいいが、そういう過程が必要である。彼と彼女が愛し合う、というのもしあわせであるがそれは、生きるという中ではすべてではない。

人が生きている証しという観点からすれば、母親から受けた愛も、恋人から受ける愛も、自分が仕事を通して感じる生きがいも、新しい価値観に気づき、それに浸る瞬間もすべて幅広いのである。何年か前、村上ファンドの村上さんが「お金を儲けるこ

とはわるいことですか」 とマスコミの記者に質問して話題になったが、当時の仲間の堀えもんも含めて、お金を儲けることはしあわせの一つであろうがそれがすべてのように目的化してしまうと、本来のしあわせ観にはなじめないものが出てくる。しあわせ観はただ健康に生きているということでも感じられるのであり、身近なところにも存在する。そして唯一つのものではなく複数に存在する。今、そこになくてもいつかは出てくる息の長いものである。心の内だけで育つものも、お金や物のように実態をとともなうものもある。奥が深いものであるといたいのである  
ただ 親が子供にかける愛とか、異性にかける恋など人間にある本能的な愛は普遍性があるものであります。さらには自然の絶対的な美しさ、たとえばアルプス山系の美しさ、夕日が水平線に落ちゆく優雅さ、など自然の持つ崇高紙な神神しさなどには畏敬の念を誰もがもちその価値は普遍でもあることを津えっ加えたいと思います。

## 12 国家の成長と衰退の価値観について

国や民族の歴史は多くのことを教えてくれます。消えてしまったインカ文明や、ボンベイの火山の爆発によってうずもれた都市など数奇な奇跡があります。しかし本当に不思議に思わなければならないのは民族が生き延びて 繁栄した都市が残っているのに 衰退する運命があるという歴史であります

すなわち「ひとたび、世界的覇権を握った国は二度と再興しない」という定理があるということです。

天体の法則を考え、巨大なピラミッドを作ったエジプト人が滅びもせず現存しています

哲学を論じ、建築や絵画で高い技術を誇りました。陶片投票を編み出し、民主主義の基礎まで作ったギリシャはどうでしょう。ローマは戦いに勝って世界を支配した大帝国でした。スペインもかつては七つの海をまたにかけ世界の覇権をにぎりました。次の時代は大英帝国でした。

国家というのは、ひとたび頂上を目指し、あるときを越えると次は 衰退を始める党言う歴史的必然があるのです。普通なら一番をとったことのある人なら、何かの理由で成績が悪い時期があったとしても、もう一度頑張って一番にかえり咲くことがあっても不思議はありません。ギリシャがローマに一時は敗れたにしろ、国民が生存する限り、夢よ、もう一度とって、国民の英知を絞り催行できる力はなかったのでしょうか スペインがイギリスとの海戦に敗れたとほうえ、英国に占領されたわけでもなく国民が奴隷にされたわけでもないのです。

くどいようですが それではどういうときに国家が栄え、どういうときに国家が衰退するのでしょうか

- 1 その時代に一番有効なエネルギー資源を最大に活用できたことです（エネルギーの活用）
- 2 国家が強い政治力を結集できたこと（政治的リーダーシップ）
- 3 社会に競争原理のルールがはたらいっていること（市場原理の社会体制）
- 4 国民の教育水準がある程度高いこと（教育と国民意識）

## 5 強力な軍事力が背景にあること が必要条件である

スペインの時代は植民地から物を運ぶ船舶こそが、エネルギー源であり、英国の時代は産業革命によ石炭が動力を活用する最大のエネルギーであった  
アメリカが「世界になったのはエネルギー減は石炭から石油へと代わり、石油を利用して、自動車や航空機を最高に活用したことであった。  
日本も戦後、経済大国になったが、アメリカと組むことにより石油エネルギーを有効に利用できたことにあった。そして何よりも、農地解放、財閥解体がおこなわれ、一気に競争社会が出来がったからに他ならない。国民が衣、食、住を求めてしゃにむに走った結果が、先進国を追い抜き世界第二位の経済大国に成長したのであった。  
中東産油国は、オイルはもってもそれを活用できなかったことがある。

現在の日本の現状について付言すれば、政治が完全に失墜している それ馴れ合い型が長くつづいた自民党政権、反動で民衆迎合になった民主党が市場原理主義野の精神を見失ったことがある。もとより自国を護る精神すらアレルギーを持つ国である。日本の正当な国家観がとわれている。

これからのエネルギーは原子力になるのか、太陽光の利用なのか、エーにつながる新しい産業革命が起きるのか不明である。  
ただ、国家が繁栄すれば、いずれの国民も等しくハッピーとはいえない。東ドイツが崩壊してドイツが念願かなって統一した。それから 15 年経って、新聞社がアンケートをとったという記事があった。東に住んでいた住民の一部は 古い時代のほうが豊かであった、と答えている。

## 13 価値観に普遍性もある

わたしはこれまで価値観は、その時代や、人々の考え方のものさしで、変わってくるということ話を話してきた。しかし、実はそれは本当は正しくないのです。  
エジプトの王様のミイラをみたことがあります。四つの足のついたベッドによこたわっておりまして。耳飾りもつけていました。肌につけていた服装は、スカートのようなものであり現代に出てきてもさほど違和感のななおものでした。その服装の色は、復元図をみると浅緑で実に気品に満ちた色でした

今回はものの価値について考えてみた。次に命のかちについてかんがえる。一人の命は地球の重さより重いといった政治家もいた。国を救うために俺の命を賭けるといって死んでいった若者もいる。  
人の命なぞ虫けら同然といった王様もいる。日本では手術に失敗したからといって 1 億円を超える訴訟がでた。  
命はいったいどのような価値とするのか。